

平成27年度山口市美術展覧会講評

大賞

「2016年、余命11年宣言。」

井岡 義朋



沢山の奇妙な顔が画面の中を埋め尽くしている。伸び伸びとしたストロークで描かれたそれぞれの顔は、不気味かつ愛嬌のある顔たちであり、悲喜交々の感情を表しているかのように見える。一方画面の下部を見ると白いゴマファザラシか、包帯で巻かれた人体のようなものにチューブが刺さっている。おそらくこの物体は画家自身の姿であり、その姿を見に来た人たちが、沢山の顔なのであろう。

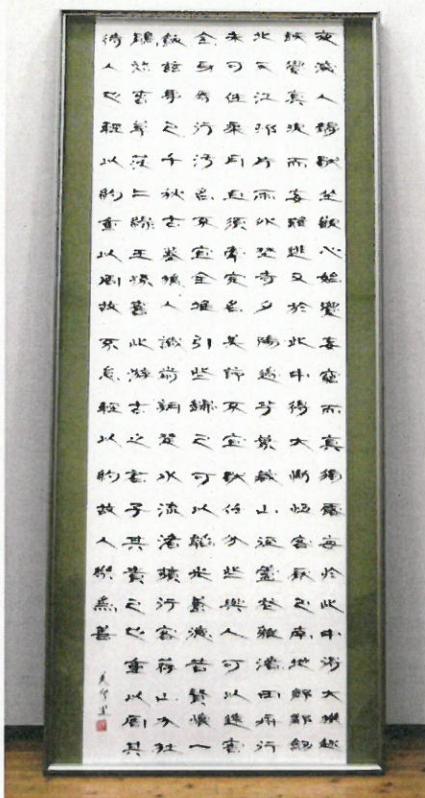
作者はタイトルを「2016年、余命11年宣言。」としており、病床に臥せた自分を俯瞰して覗き込むような図像は仏教の涅槃図のようでもある。また、病人にあたる物体が現代の環境そのものであれば、この図は環境問題という自ら作り出した病に悩む、地球に住む我々全てに思い当たる余命宣告であるのかもしれない。

(中野 良寿)

準大賞

「菜根譚」

増田 美登里



隸書作品の大作です。端正に整い繊細で緊張感漂う趣の中に、躍動感を感じます。静寂の中の躍動、作者の意図が窺えるところですね。収筆ののびやかさが一段と作品に妙味を与えています。さらに、隸書の特徴である扁平・水平の字形を整然と配置し、多字数にも関わらず一分の隙もないように構成されているところが魅了されるところでしょうか。技術的にも大変完成度の高い作品だと思います。

(生田 照代)

山口市教育委員会賞

「魑魅累累（ちみるいりい）」

祐村 惠彦



瑞々しい地表面を捉えると同時に、人の介入できない世界の存在を想像し創り上げている。瞳は強い発色の中にうごめき、空間と形状を見る側に委ねる存在感を内包している。あと少し丁寧な合成処理の必要性を感じたが、現実と非現実の間を往来する感覚を生み出し、心地良さと不安感の誘発を成立させている。写真を通じて独自の世界観へと昇華させ、心を揺さぶる興味深い作品に仕上がっている。

(倉田 研治)

山口文化協会賞

「聴雪」

徳永 和代



天変地異、汚職、自然破壊、虐待、殺人、戦争、不安、等々、目を覆いたくなる様な事件やニュースで溢れている昨今、市美展の作品も世の中を映し出す様なテーマが多いなか、自然豊かな場所を求めてくる。と同時に、こう言った空間を残さなくてはならないという気持ちにさせてくれる。この作品は白黒の一見禁欲的な水墨画の様にみえるが、様々な色の岩絵の具を幾重にも塗り重ね、雪の白は落雁の様な甘く軟らかな質感があり、黒は緑や青、紫などが塗り重ねられ、作者の優しい豊かな感性が伝わってくる。

(原井 輝明)

おごおり文化協会賞

「灯ー山口の竹とスペインの
ランプのコラボレーション」

田中 勉



天部の小さな網目から基部の大きな網目へとグラデーションをつけて正確無比に籠（ひご）を編み上げることで、ともすれば単調になりがちなるデザインに複雑で繊細な風情を織り込ませている。

日本の伝統的な竹工芸の技（わざ）を西洋的なランプの笠にコラボさせようとした製作意図が、確かな技術に裏打ちされて独自の造形美を生み出し、伝統的な技術を大切にする作者の竹工芸の方向性に、また新たな地平を切り拓いた。

作者の手仕事は当然ながら笠の部分の竹工芸だが、山口市と姉妹縁組したスペインの都市をイメージすることで、当たり前となった日常の洋式の生活空間の中に和を調和させ、ランプの光と竹籠の翳による憩の空間を演出する作品になった。

(木本 信昭)

◆ 総評

本年も山口市美術展の審査をさせていただきました。昨年並みの出品点数で出品者の年齢層も14歳から88歳と幅広く、力作も多く見応えがありましたが、もっと高校生や大学生など若い世代の出品数が増えれば裾野が広がり、さらに活気のある展覧会になるのでしょうか。

審査員にもそれぞれ得意なジャンルがあり、大賞候補となったのは書道部門の「菜根譚」、写真部門の「魑魅累累」、絵画部門の「2016年、余命11年宣言。」の3点ですが、審査員全員で議論をたたかわせた結果、昨年の大賞受賞者が本年もグランプリの栄に輝くことになりました。山口文化協会賞に輝いた絵画部門の「聴雪」は、一見地味ですが、丁寧で確かな製作態度とモノトーンながら鑑賞者を画面に引き込む詩情あふれる作品として高く評価されました。

山口県出身で近代日本画の父と呼ばれる狩野芳崖は「絵筆が折れたら、そこから鮮血が迸る絵を描け」と弟子たちを指導したという。作者の魂が乗り移った個性あふれる作品を期待します。

(審査委員長 木本 信昭)

(審査員)

生田 照代	梅光学院大学非常勤講師
木本 信昭	元下関市立美術館副館長
倉田 研治	山口県立大学国際文化学部准教授
中野 良寿	山口大学教育学部准教授
原井 輝明	宇部フロンティア大学短期大学部准教授

(五十音順・敬称略)

平成27年度山口市美術展覧会受賞者一覧 (H28.3.1現在)

	賞	部門	作品名	作者氏名	地区	年齢
1	大賞	絵画	2016年、余命11年宣言。	井岡 義朋	小郡	73
2	準大賞	書	菜根譚	増田 美登里	湯田	39
3	山口市教育委員会賞	写真	魑魅累累(ちみるいりい)	祐村 恵彦	一	一
4	山口文化協会賞	絵画	聴雪	徳永 和代	鋸銭司	65
5	おごおり文化協会賞	工芸	灯-山口の竹とスペインのランプのコラボレーション	田中 勉	大歳	65
6	奨励賞	絵画	『覗いてみて』	西澤 佑	平川	22
7	"	絵画	感核のところへ	美藤 信市	大殿	42
8	"	絵画	月の零(白昼夢)	岩田 一男	仁保	68
9	"	書	百人一首	河村 文代	阿知須	81
10	"	写真	暁光 秋吉台	岡本 健	陶	79
11	"	写真	家路	菅野 智文	大歳	39
12	審査員特別賞	絵画	ねがうとき	佐藤 文恵	湯田	27
13	"	工芸	楽焼窯変碗	佐々木 克己	大殿	88
14	"	書	袖ひちて	松浦 公恵	白石	59
15	"	写真	群衆	江村 順子	湯田	63
16	"	デザイン	Fragile[気分しだいで]	佐々木 研己	大殿	62